

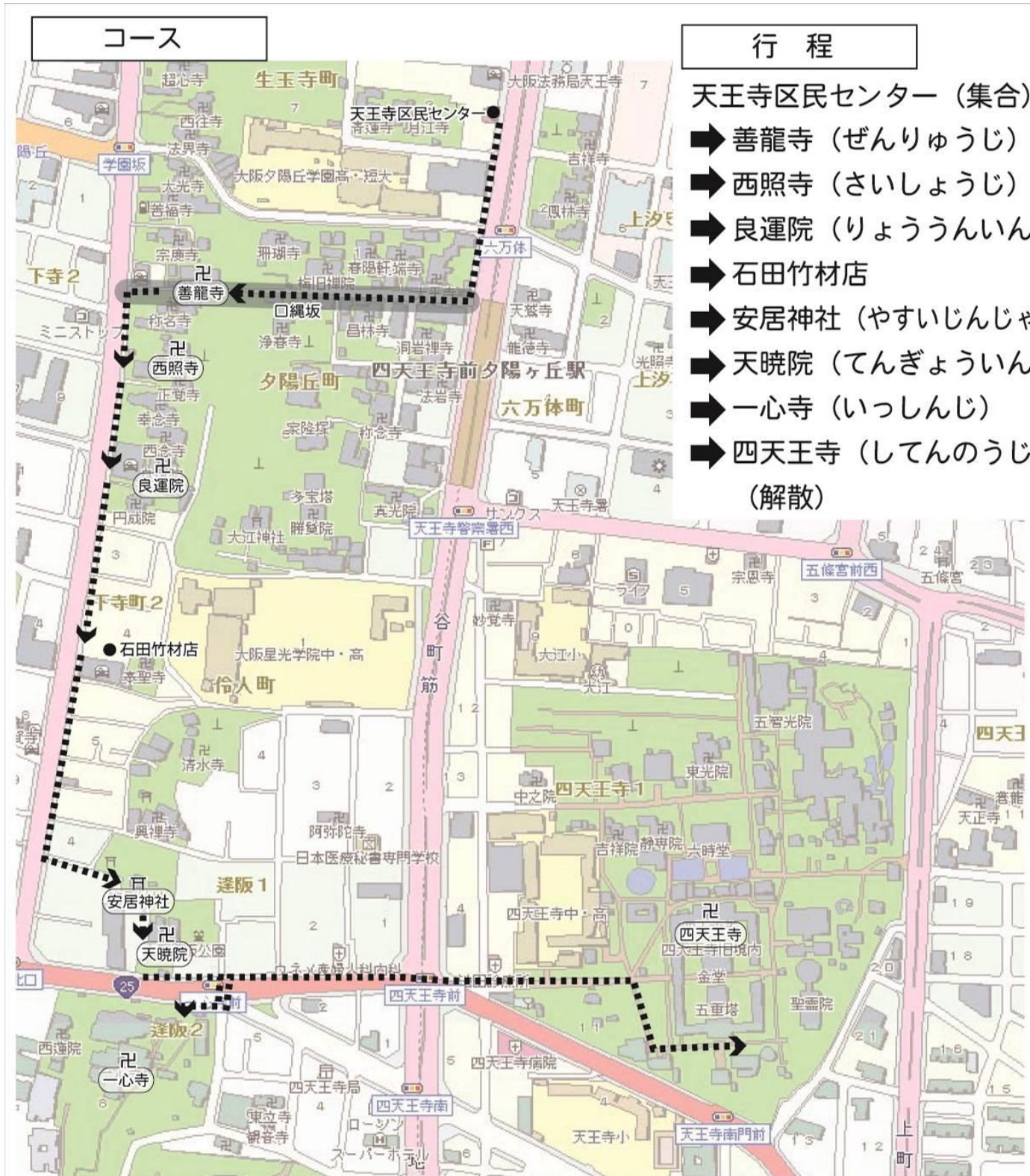


てんのうじ知りたいウォーク第3弾 ~いよいよ!大坂の陣から400年...~

日時 平成26年4月13日(日) 13時15分受付開始 13時30分催

主催 てんのうじ知りたい倶楽部(旧未来わがまち会議)

協力 天王寺区役所・てんのうじ観光ボランティアガイド協議会



◎口縄坂(くちなわざか)



天王寺七坂の中で一番情緒がある坂。坂の下り口にある織田作之助の文学碑に、「木の都」の一節が刻まれています。冒頭で主人公が府立高津中学校(旧姓)の籠球部(バスケット部)へ入って4日目、指導選手派遣を依頼された先輩について、夕陽丘女学校の校門を一度だけくぐった話が出てきます。「指導を受ける生徒の中に偶

然水原といふ、私は知っているが、向こうは知らない美しい少女がいたので、私はうろたえた」と書かれています。(久志本秀夫作 上町台地坂道紀行より)昔、此の坂が険しく縄を架け渡して、人々はそれにすがって上り下りしたためこの名がついた、また別に大坂築城の時、ここから縄打ちの測量が始まったので、口縄と呼ばれたとの説もあります。しかし一般には、下から見上げた坂の形状が、蛇の腹に似ているので付いたとも云われています。

階段を下りた左手に、夕陽丘高等女学校跡の碑があります。(明治41年、島之内から移転。昭和9年北山町へ)善龍寺は、さくらの季節には、しだれ桜が見事に咲き誇ります。

◎一雲山化川院 善龍寺(ぜんりゅうじ)：浄土宗(本尊:阿弥陀如来)

元は松屋町筋沿いにあったが、昭和47年再建時に現地に移動。境内の枝垂桜と「海中出現地藏尊」が有名。下寺町が大阪湾の海底だったころ、漁師が光り輝くお地藏さまを発見した。漁師はそのお地藏さまを家に持って帰った。漁師の母は病気で、お地藏さまを拝み続ければ治るかもしれないと毎日拝んだ、すると母親の病気がたちまち治った。それ以来「口縄坂の身代わり地藏」と信仰されている。



◎小柴景山の墓

狩野派の画家、号は幽探齋、享和元年(1801)7月17日没

◎光明山寿徳院 西照寺(さいしょうじ)：浄土宗(本尊:阿弥陀如来)

光明山寿徳院といい、慶長元年(1596年)心光利傳を開山上人とする浄土宗総本山知恩院の末寺として開基しました。西寺町の南のさくらの名所。山門の左側に十一面観世音菩薩像、右側に安政6年(1859)に作られた佛足石がある。此の辺では古い佛足石です。東横堀本町橋と濃人橋にあった浄圓寺の七件の塔頭の一つであり、元和年中、現在地に移転したものである。大阪市外の拡大発展を予測して周辺部へ、又軍事上の見地から有事の時、集結した軍兵の中博施設や外部から大阪へ侵入しようとする敵への障害物として、いずれも大坂城を守る位置に定められたとも言われる。



西照寺は富永仲基(なかもと)一族の墓石があり、真ん中に富永仲基招魂碑が安置されている。富永仲基(なかもと)は江戸時代の大坂が生んだ町人学者で、その思想は本居宣長や平田篤胤に大きな影響を与えたといわれる。1715年(正徳5年)大坂淀屋橋尼崎町1丁目(現中央区今橋3丁目)で醤油醸造業を営む富永芳春の2男として生まれた。幼名幾三郎、通称道明寺三郎兵衛。



◎良運院(りょううんいん): 浄土宗 (本尊:阿弥陀如来)

慶長年間(1596~1615)良運上人の創建と伝わるが、詳細は不明である。元和年間(1615~1624)幕府の都市計画により北船場西縁の浄国寺町から移転した。日限(ひぎり)地蔵尊は大正5年建立。江戸時代には宝永5年(1708)に成立した旧大坂地蔵四十八カ所巡礼の四十二番札所として永く信仰を集めてきた。鎮守社は豊川稲荷を勧招。

御本尊は戦災を免れた阿弥陀仏像で恵心僧都源信作と伝わる、3尺弱の細く優美な立ち姿で、来迎の印を結んでおられる。

良運院は東儀一族墓所・天王寺楽所の楽人 秦河勝(はたのかわかつ)を祖とする雅楽の名家・東儀家の本家歴代の墓がある。(大阪市顕彰史跡第186号に指定)東儀一族は、秦河勝を祖とする雅楽師の名家で、天王寺楽所に属していた。中世後期からは官位を受けて宮中の楽師ともなり、江戸時代には徳川家光に招かれ少数の庶流が幕府の楽人となった。明治時代に大部分の楽師が太政官雅楽局(宮内庁楽部)に召集され東京に移住した。良運院には江戸前期からの本家歴代の墓所がある。



◎石田竹材店(いしだちくざいてん)

創業は1947年(昭和22)父幸治さんが老舗竹材店の修業を終え、下寺町の現在地で独立を果たす。周囲にはまだ焼け跡が広がる。幸治さんは焼けガラを掘り出し、整地して店を構えた。

竹材店は社会の動きと関わりが深い。プラスチックなどの石油化成品が登場しないころ、成長の早い竹は万能の素材だった。主力商品は物干しざおと竹籠。結婚して所帯を持った若夫婦がいそいそと物干しざおを買い求めにきた。竹籠はものを入れて運びやすく、仕分けがしやすい商売を問わず重宝された。

実用性や機能性から、装飾性、デザイン性へ。近年、照明の注文が相次ぐ。竹ひごに和紙を張ると、光の表情が和らぐ。直線的な配達範から、曲線的で立体的なオリジナル作品へ。提供する商品の姿かたちは変わっても、通底する中核技術は揺るぎない。四つ目編み、六つ目編み、輪弧編み。伝統的な編み方に磨きをかけながら、新たな造形美への転用活用に挑む。



◎安居神社(やすいじんじゃ)

神社は、茅渚の海(大阪湾)を遥かに見下ろす景勝の地に在る。その創建の年代は古文書の散佚せるため詳らかではないが、聖徳太子が四天王寺を建てられた頃であろうと伝えられている。

御祭神 少彦名神(スクナビコナ)菅原道真公。この道真公が、筑紫に左遷され給う道すがら当境内にしばし安居(やすい)された(憩われた)という旧址の縁を以て、公の死後四十年を経て天慶五年(西暦九四二年)ここにその神霊を合祀され給うたことはいみじくも畏いかぎりである。

古来七名水と言われた安居の清水(かんしずめの井)の址がある。

石材を切り出した鳥居があり、なぜか一文字のみ左右逆の鏡文字で掘られている。

◎摂津名所図会大成での記述

当時は天満宮と稱して菅神とす諺に菅原道真公筑紫に左遷のみぎりここに暫時やすらひ給ふ故に安居の名ありと一説に此地は天王寺の僧徒結夏九十日の間ここに安居(あんご)せし寺院ありし舊地にして安居院(あんごのいん)の文字のちに安居と地名に稱しとぞ



◎天暁院(てんぎょういん) 仏国寺清浄寺: 浄土宗 (本尊:阿弥陀如来)

四天王寺新別所として鎌倉期開創。

引導地蔵尊(三鐘地蔵)があり、その地蔵尊は昔村民葬送の際、四天王寺西門の引導石を棺にすえて、無常院すなわち北鐘堂の鐘を撞き、それより此の堂前を過ぎて墓所に送る際さらに天暁院の堂前の鐘を三たび鳴らすのを旧例としたところから、鐘前にある地蔵を引導地蔵、三鐘地蔵の名があった。旧大坂四十八カ所地蔵巡り四十番。



◎撰津名所図会大成での記述

逢阪上北側にあり天暁院と號す聖徳太子の草創なり荘内の村民死を葬する時天王寺鳥居の傍らにある引導石に棺を送り六時堂の向なる引導鐘をつき夫より此堂前を通りて鳶田の三昧に至る時此尊前の鐘を三ッならずを旧例とす故に世俗引導地蔵あるいは三ッ鐘の地蔵ともいへり

◎坂松山高岳院 一心寺(いっしんじ): 浄土宗 (本尊:阿弥陀如来)

法然上人が文治元年(1185)慈鎮(慈円)上人の招きにより、この地の4間4面の草庵にて日想観を修められました。たまたま四天王寺に参詣されていた、後白河法皇も床を共にされ三人で日想観を修められました。

一心寺の名は慶長元年(1596)本誓存牟上人が法然上人の旧跡を慕い1000日禁足、昼夜不眠の念仏を修め再興したことにより名付けられました。納骨の寺として全国的に知られ、納められた骨によって10年ごとに阿弥陀佛が作られています。平成19年4月13期佛の開眼法要が行われました。



◎一心寺山門(仁王門)平成9年完成

山門は前住職 工学博士 高口恭行長老の設計です。平成9年4月第12期骨佛開眼法要にあわせて、鉄骨造りの山門に改まり、両脇に青銅製の総丈5メートルの仁王像、扉の四人の天女は、画家 秋野不矩氏の原画を、神戸峰男氏が浮き彫りにしたものです。右扉よりスリランカ・タイの南方系、其の左インド系、其の左中国・朝鮮・日本極東系、左端シルクロード系の天女。インドの佛蹟では人々がその胸と腰にふれて、生命のご利益を得るとされています。戦災で焼失した山門は大阪城玉造門を移設したと伝えられ「黒門」と呼ばれていました。

◎一心寺本堂 昭和41年再建 総檜造り

現在の本堂は法然上人750年御遠忌を記念して、5年の歳月を掛けて再建完成されました。十間四面、総檜造りの壮麗な建物です。本尊は大本山百万遍知恩寺からお迎えした阿弥陀如来立像を中心に両脇陣に施餓鬼壇が置かれ、年中休むことなく施餓鬼の法要が営まれています。

◎本多出雲守忠明(ただもと)の墓

天正10年(1582)本多忠勝の次男、慶長19年(1614)大坂冬の陣にも参戦したが、酒を飲んでいたので、敵の猛攻に遭って敗退した。家康に咎められた忠明は大坂夏の陣で汚名を果たさんと天王寺・岡山の戦いで先鋒を務め、毛利勝永軍に正面から突入し戦死した。死の間際「戒むべきは酒なり、今後わが墓に詣でる者は、必ず酒嫌いとなるべし」と言葉を残したといわれ、死後「酒封じの神」と知られるようになった。元和元年5月7日34歳で討死する。

◎四天王寺

別添資料参照

てんのうじ知りたい倶楽部メンバー募集!

てんのうじ知りたい倶楽部は会員相互に協力し、住民意識を向上することで、住みよい魅力あるまちづくりを推進することを目的とし、天王寺区未来わがまち会議の活動を継承しつつ、天王寺区の宝(文化・歴史・企業など)を区民に知ってもらい、天王寺区に住む喜びを感じていただくとするグループです。

詳しくは tennoji.shiritai.club@gmail.com にご連絡ください。